

「もんじゅ」を見学！

あらゆる原子力開発＝核兵器開発反対！

10月8日、ＪＲ西労主催の高速増殖炉「もんじゅ」現地視察・交流学習会が開催され、分会からも参加しました。

福島第一原発事故以来、原発依存の社会から「脱原発」の市民レベルの反対集会が各地で開催されています。私たちは、原子力発電は核兵器（もんじゅで作られるプルトニウムは、核兵器にすぐに転用可能な高純度のもの）、戦争につながる危険な原子力発電所の存在そのものに反対しながら取り組みを続けています。

「もんじゅ」は1995年の検査中にナトリウム漏洩事故が発生しました。それから14年後にもナトリウム漏洩検知器誤作動を起こし、その後も炉内中継装置の引き抜き時に落下事故が起きました。このように設備だけでなく初歩的ミスが発生させる原子力機構の問題も明らかになっています。

核燃料サイクルは、原子力発電で燃やした核燃料⇒使用済核燃料再処理工場（青森県六ヶ所村）⇒取り出したウラン・プルトニウム⇒プルサーマル「もんじゅ」という流れとなる設備です。

高速増殖炉型炉「もんじゅ」

「もんじゅ」は、他の軽水炉型原発から取り出したウラン・プルトニウム（MOX燃料）を燃やし、燃やした以上の燃料を生み出す「夢の原子炉」とも言われていましたが、再稼働の点検中にも細かな故障がたびたび発生しています。



燃料を冷やすために必要なのがナトリウムであり、空気に触れると激しく燃え、水に触れても爆発的に反応します。そのような危険な燃料、冷却材を使用しているだけでなく、立地場所の敦賀市白木の敦賀半島は活断層の巣とも言われ、M6.9クラスの活断層が2本も走っています。また、福井県若狭湾に集中する15基の原発は何が起こるか分からない状態です。「もんじゅ」は建設、運転維持費、燃料費をあわせて1兆3300万円を費やし、現在停止中にも関わらず一日5500万円（年間200億円）の維持費がかかり、文部科学省は来年度も215億円の予算要求をしています。

ひとたび若狭湾で原発事故が発生すれば関西にも大きな被害をおよぼします。自然や人間への被害は甚大です。

美しい自然や子供たちの平和な未来を残すためにも、原発問題に対して警鐘を鳴らしましょう！

